

## 第三回分析分科会運営委員会議事録

日時：平成24年12月5日(水) 16:00～18:00

場所：ホテル福島グリーンパレス 櫛の間

出席者：

工藤 素(秋田県)、杉内重夫(福島県)、上野博志(東京都)、林 英男(東京都)、坂尾昇治(神奈川県)、大橋芳明(名古屋市)、斧 督人(滋賀県)、山本和弘(安達代理、滋賀県)、南 秀明(京都市)、石丸尚志(愛媛県)、門家重治(愛媛県)、長岡昭二(熊本県)  
産総研:衣笠晋一、福本夏生、伊藤信靖、桐原木綿子、黒岩貴芳

### 1. 自己紹介

運営委員会開催に先立ち、運営委員の自己紹介を行った。

### 2. 第二回議事録確認

資料2を用いて、衣笠委員長より第二回運営委員会議事録の確認を行った。

### 3. 年会プログラムの確認

資料3を用いて、衣笠委員長より年会プログラムの確認を行った。

### 4. 平成24年度分析分科会タイムスケジュールの確認

資料4を用いて、衣笠委員長より年会での進行等についての確認があった。

- ・司会等の確認→第二回運営委員会で決定した通りの役割分担で行う。
- ・集合写真→昼食の前に撮影。ホテルに状況確認と指示(ひな壇準備)→伊藤がホテルと相談
- ・参加証と認定証の手交について→去年は神奈川県だった。今回は大分の方(安部ゆかりさん)。→安倍さんには、事務局より事前にアナウンスと了解を得ておく。
- ・門家委員→検討会の2時間のうち、結果報告に必要な時間は?→10分くらい
- ・ナノ粒子の粒径の時間が短いのは?→当初に、時間は短くて良いと委員長から指示があった。
- ・タイムキーパーはあるのか?→必要があれば準備する。
- ・講演データ入力は?→午前中の人は朝に、午後の人にも昼休みには入れてもらうように。

### 5. 共同研究報告値の有効数字に関して

資料5を用いて、伊藤より経緯と状況を説明。

- ・一般の共同研究では、報告はどうしているのか?

→きちんとやっているはず。ただ、今回は統計処理的な問題。どこで数値の丸め方をしているのかが効いてくるので。有効数字の定義とは矛盾のあることを承知で、桁数を多めに出示してもらっている。

- ・福本委員が z スコアの箇所で説明した方が良いのでは？  
→事務局が検討会の始めに事務連絡として説明し、必要があれば福本委員が z スコアで説明する。
- ・有効数字の件については、最も精度が出る分析法に合わせている。有効数字としての概念からするとおかしいことは事務局としても承知。来年についても同じ方向で。
- ・きちんと複数回報告するように、ということもアナウンス。“有効数字”と言うのが受け入れられないのであれば、“報告桁数”と言うことで4桁での報告をお願いする。

## 6. 昭和電工への提供データについて

杉内委員より、資料6を用いて状況の説明があった。

- ・配布資料6のフローチャートは一部しか載せてない。表からは報告値を削除した。
- ・試料提供者へのデータ提供は、今回が初めてのケース。今回やったことが前例になってしまうので、きちんと考えた方がよい。参加者には、フローチャートは部外者に見せると言っ  
て出してもらっているわけではないので、きちんとその人に確認した方がよい。
- ・はんだの場合は、試料提供企業の方には共同分析の報告書を送った。ここ何年か試料調製に協力してもらっている KANSO の手にも渡っているはず。
- ・共同分析の資料は完全にオープンではないので、あくまでも分析分科会として見せるのではなく、個人的に見せることは可能では？ 基本的には、資料6の4ページまでを提供することで。

## 7. 次年度以降の計画

伊藤より、来年度の共同分析試料の準備について、進捗状況の報告を行った。

- ・来年度は SUS304 で準備が進行中とのことだが、SUS304 と明記するか？  
→するつもりで考えている。
- ・昔はステンレス鋼と言っていたのか、それとも SUS〇〇と具体的に言っていたのか？  
→1978年にはステンレス鋼と言っていたようだ。
- ・測定対象は？  
→ケイ素、マンガン、ニッケル、クロム
- ・手順書にはどう書くのか？  
→日常業務で行っている方法で分析してもらうことを考えている。一応、関連する JIS は手順書に挙げる予定。  
→手順書の内容については、4月の運営委員会で確定するように準備する。

## 8. その他

- ・報告書と質問の回答は、年會に来てない人にも見えるのか？→HPに挙げて良いと思うが、詳細については別途相談。

- ・ 来年は材料評価の試料は？→次年度の衣笠委員長の方で、できるだけ早めに決める。
- ・ 要望はどこで言えば良いのか？→検討会の際に言ってもらえば良い。

以上